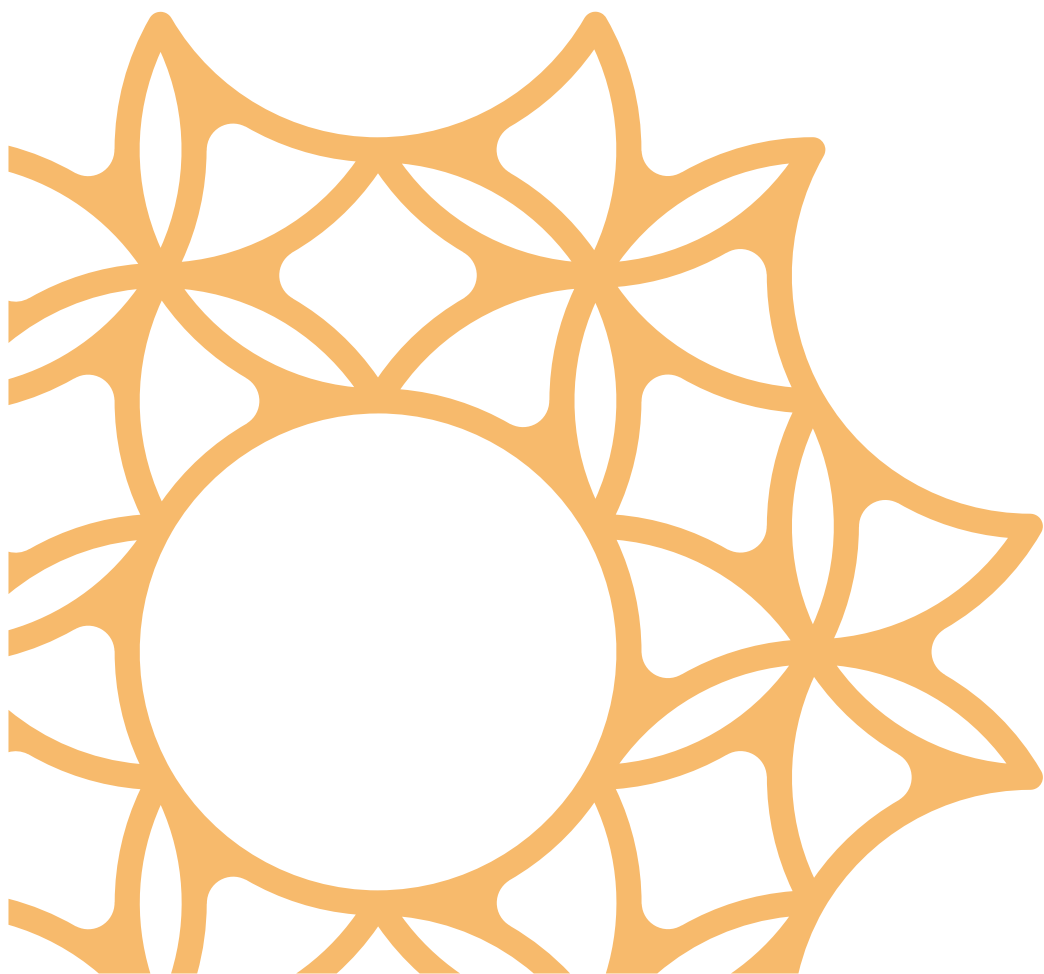


KASEI

製 作 物
カ タ ロ グ
コ ン ペ 編



目次

机・椅子	ぱったり床几	…02
	Hourglass chair	…03
	「名前」のない椅子	…04
住戸周り	展開式ついたて	…05
	ippo ippo	…06
	ステップ アシスト	…07
	広がる居場所	
	ー仮設住宅から住宅街へー	…08
収納	宅配ボックス	…09
	Wood cube	…10
	ハコ × □ =	…11
感染症対策	半透明屏風	…12
その他	領域を縫う	…13
	post garden	…14
	蘭草の行燈照明	…15
参加学生		…16

ばったり床几



▲ 折りたたむと市松模様の壁となり、殺風景になりがちな壁に暖かみを与えます。往来する隣人や車両の通行の妨げになりません



▲ 広げると二人掛けの机椅子として利用でき、組み合わせると大人数でも利用可能

日本の町家建築に見られる「ばったり床几」に注目し、開口部の周辺や壁面を利用し、殺風景になりがちな仮設住宅に親しみと生活を拡張した空間を作ります。

取り付ける場所は壁面や縁側だけでなく、自立することによりそれ単体での使用も可能です。また、ばったり床几の機構を用いたコンパクトな設計になっており、複数重ね合わせることで、大人数でのコミュニケーションにも活用出来ます。加えて、木を使用することにより生活に暖かみを与えるような提案をします。

材料

- ・ 木材
 - 19×90×638 (mm)
 - 38×90×700 (mm)
 - 19×90×560 (mm)
 - 38×38×140 (mm)
- ・ 差し込み金物

Hourglass chair



▲ ひっくり返すことによって大人用と子ども用の椅子の二役をこなします



▲ カバンをかけたリ ...



▲ モノを飾ったり ...

仮設住宅の問題点として挙げられる中に広さの問題とコミュニケーションの欠落などがあります。その問題を解決すべくスタッキングで平面的な広さ問題を解消し世代間コミュニケーションを創出できる幅広い年代の方々に利用していただけるような椅子を設計しました。

「ものづくりを通して人々を笑顔に」を合言葉に仮設住宅での生活を楽しく豊かなものにして頂きたいと考えています。「砂時計」をモチーフとし、今までありそうでなかった“ひっくり返す”行為をデザインの中に取り入れました。

「名前」のない椅子



▲ 複数のベンチを組み合わせることで、台形を生かしたさまざまなデザインを創ることができます



▲ 円形に組み合わせて、話し合いや木の周りにベンチとして配置することもでき利用者のコミュニティ創出に繋がります



▲ 重ねて2脚運べ持ち運びも便利です

◀ 棚としても利用することもできます

一般的にベンチのある空間では自然に人と人とが向き合い、横に並び、時には背を向け、さまざまな光景が想像できますが、この持ち運び可能なベンチの配置変化によりその各空間を意図的に創り出すことができます。

また、このベンチは動かすことで台形を生かしたさまざまな美しいデザインが生まれます。「名前」のない椅子というのも、この自由さを生かして利用者の色に染めて欲しいという思いをこめてのものです。

そんな空間創造性やデザイン性を併せ持つベンチをここに提案します。

材料

・木材

- 38×38×400 (mm)...4 本
- 30×105×700 (mm)...3 枚
- 30×105×700 (mm)...3 枚
- 30×300×200 (mm)...2 枚

・釘

- 60 mm 以上 ...32 本

展開式ついたて



▲ 台を差し込み、鉢や小物を配置することで、各住戸の暮らしが住棟間に漏れ出るきっかけとなります



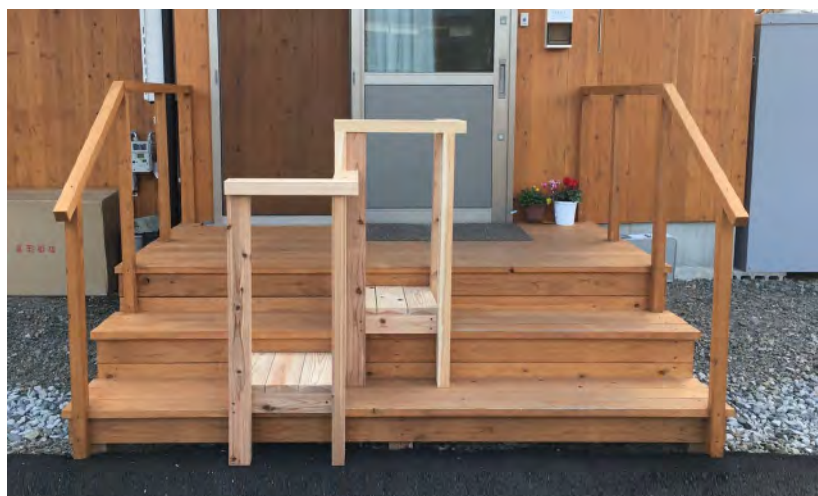
▲ 外部空間での活動や近隣住民との交流のきっかけを作ります

私たちは、住棟間に住人のプライバシーを保つとともに近隣住民の交流のきっかけになるような「展開式ついたて」を提案します。この「ついたて」は単に広げるだけでなく、すき間に色々なパーツを加えることで、様々な用途での使用ができます。各住戸の暮らしが住棟間にもれ出ることで、近隣住民の交流のきっかけとなり、現在の仮設団地の風景をより賑やかにするのではないかと考えています。

材料

- ・ 木材
 - 60×90×700 (mm)...33 本
 - 60×90×60 (mm)...22 本
- ・ M8 全ネジボルト ...4 本
- ・ M8 ナット ...16 個
- ・ M8 ワッシャー ...8 個
- ・ M8 ボルトキャップ ...4 個

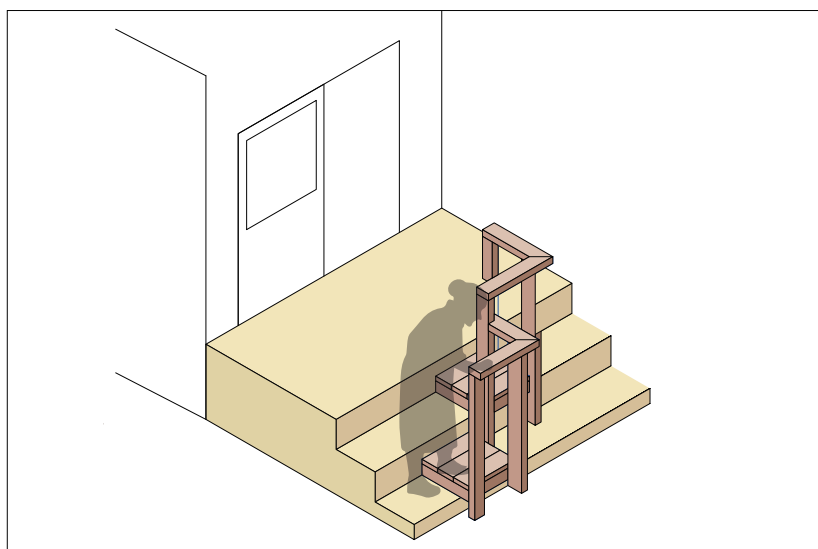
ippo ippo



▲ 既存階段を活かした簡易的な段差解消システム

階段の上り下りが難しい高齢者に対して、スロープ付きの住戸や既存の階段に段差を低くするパーツを後付けした住戸等がみられましたが、その数は少なく、設置に少し時間がかかるつくりになっていました。

そこで、より簡易的に制作・設置ができる段差解消のシステムを提案します。



▲ お年寄りの方が安全に階段を上り下りできます

ステップ アシスト



▲「縁台から降りる」という、これまでにない新しい行為を促します



▲ 縁台上に限られていた住民の生活領域が住棟間に溢れ出します

仮設住宅では住民が使えるスペースが限られるため、縁台で洗濯物を干す住宅が多く見られ、転落の不安を抱えているのではないかと考えました。また、住棟間では住戸の表裏がはっきりしており、閑散とした印象を受けました。そこで、縁側を住民の生活空間とすることで、住民同士の交流を生み、仮設団地に魅力的な風景を創出します。

材料

- ・ 木材
 - 45×60×816 (mm)...4本
 - 45×60×260 (mm)...3本
 - 45×60×226 (mm)...8本
 - 45×60×180 (mm)...3本
 - 24×910×1820 (mm)...1枚
 - 9×910×1820 (mm)...1枚
- ・ ビス
 - 70 mm以上...40本
- ・ 釘
 - 60 mm以下...16本

広がる居場所 ― 仮設住宅から住宅街へ ―



現在使われている小さなウッドデッキに着目し、単に面積を拡張するのではなく行われる行為が増えることによりウッドデッキが拡張するように計画しました。そこでは住まう人々の生活がにじみだし、趣味や会話が起きます。アイデンティティやデザイン性をもつ“街”へと変化します。

▲ ルーバーによって視線を遮るとともに、デッキを拡張させふるまいを誘発します



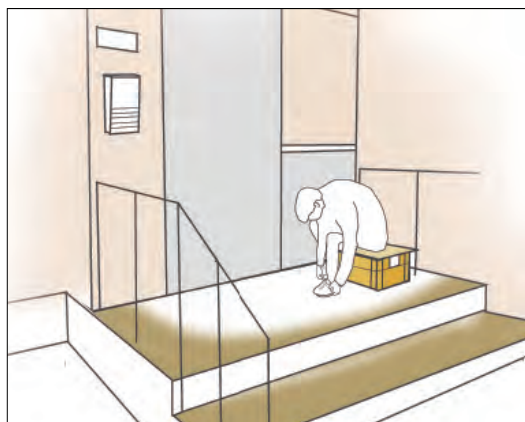
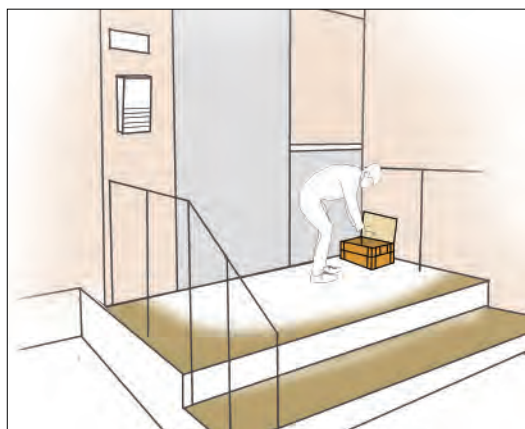
▲ 「拡張」によって住民間の距離が縮まります

宅配ボックス

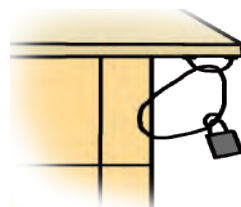


▲ コンテナボックスは耐候性に優れており、軽量・高強度であることから、外での活用や持ち運びに優れています。

仮設住宅の人たち、特に高齢者は交通手段が少なく、今はオンラインショッピングも増えてきているため宅配ボックスの需要が高まっています。そこで宅配ボックスを提供を考えました。また、ボックスを1から作るのではなく、身近なものや余っているものなど既製品を利用できないかと考え、田舎でよく目にするコンテナボックスを用いることにしました。



防犯面については、ワイヤーや錠前を使うことで施錠し、手すりなどに固定します。施錠では、普段は開けた状態にしておき、配達員に施錠してもらいます。その後、手持ちのカギで開錠します。



▲ 宅配ボックスとして使用することはもちろん、仮設住宅では靴を履いたり脱いだりする段差がないため、玄関先での椅子としても利用できます

Wood cube



wood cube のコンセプトは、「私のスタイルにはまる」です。自分の好きな形を自分で作ることができるもの。

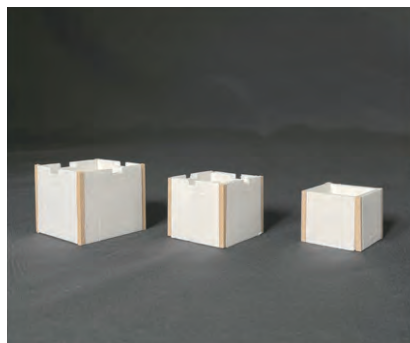
これは、決して広くはない仮設住宅を、各々の家族が工夫をすることで、暮らしを豊かにしてもらうという意味が込められています。

▲ コンパクトなサイズで回し、重ね、幅広い種類の収納を実現します



▲ Wood cube の使用例

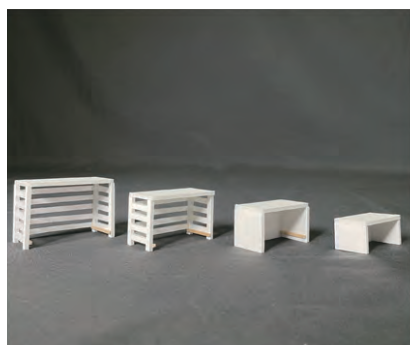
ハコ × □ =



一つの BOX を組み合わせて様々な用途に用いることが住民の行動を多様にし、それが“仮設住宅を使いこなす”ことにつながります。

また、仮設住宅退去後も使えるよう、コンパクトで移動させやすいデザインとしました。

▲ 大中小、3つの大きさの木箱からなり、異なる角度に回転させることで凹みにはめて重ねたり、横に引き出したりなどの仕組みが現れます



▲ 4つの横長の木箱から構成され、箱の下部に引っ掛けりのレールがあることで横に積み上げたり、横に引き出したりする仕組みが現れます



▲ プランター置きや収納、椅子など様々な用途で仮設住宅を彩ります

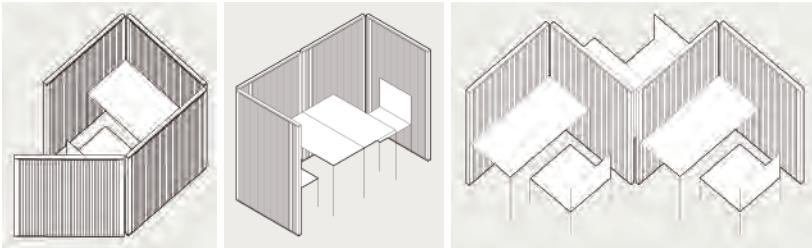
半透明屏風



▲ ポリカによって変化する風景

コロナウィルスの感染拡大により物理的な仕切りを設けなければならない時代となり、人との接触が避けられるようになりました。人と人を隔てるのが仕切りですが、日本人にとっての仕切りとは、強固な壁でなく、かといってクリアすぎるアクリルでもなく、昔から親しまれてきた障子や屏風のような半透明の存在です。

この案は、日本的パーテーションである「屏風」に注目し、仮設団地にとっても利用可能な素材であるポリカボネートを用いた半透明なパーテーションを提案します。

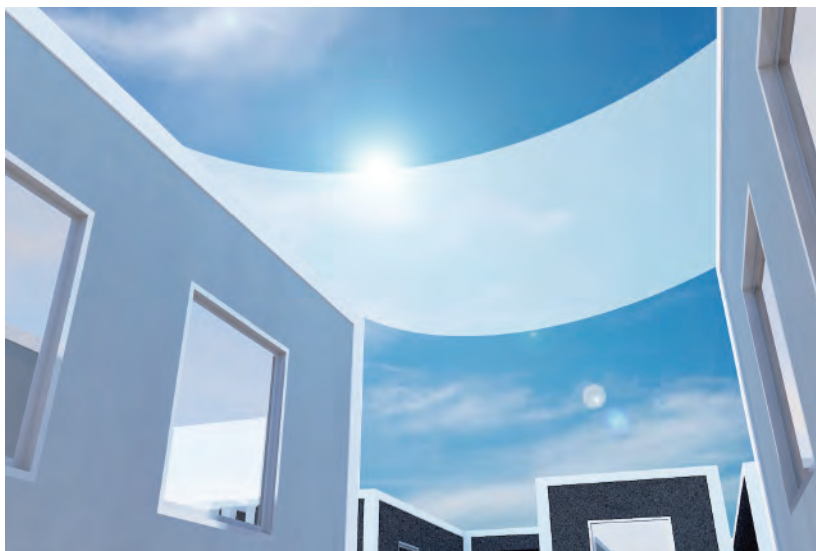


▲ 二枚一組、組数を増やすことで様々な空間利用ができます

材料

- ・ 木材
- ・ ポリカボネート
- ・ 丁番
- ・ ビス

領域を縫う



▲ 住民の活動に応じてタープをかけます

ムービングハウスを利用した仮設団地の配置は、直方体を整然とならべたものです。住戸周りが即パブリックな領域となり、プライベートとパブリックの中間領域がありません。空間を緩やかに区切り、領域を適切にデザインし直す必要性を感じました。

材料

- ・タープ
シート（難燃性ポリタフタ）
フレーム（スチール）
- ・PE ロープ
- ・フック付リング

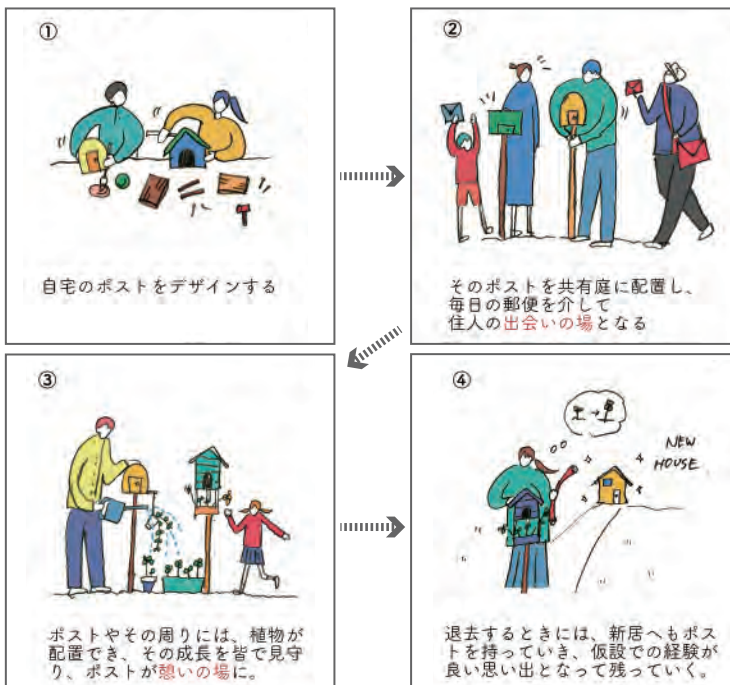


▲ タープの下でゆるやかな領域感が生まれます

post garden



▲ post garden を配置。植物の成長と共にコミュニティが生まれ、妻面通路が仮設住宅のプロムナードに



▲ post garden 作成の流れ

私たちは、どの家庭にもあって生活の中で必要不可欠な郵便受け（ポスト）を介して、疎遠になりがちな仮設団地でのコミュニティのきっかけづくりとなる「post garden」を提案します。

毎日外に出て確認するポストを、住棟の妻面に集めることで住民同士が顔を合わせる機会を生み出します。さらに、ポストは住民と協力して DIY で製作するので、ポスト自体にも愛着が湧きます。さらにポスト周りに植木鉢を置いて家庭菜園や園芸など庭のように使いこなすことで、寂しい印象だった住棟の妻面が明るくなります。またポストは退去の際に新居へも持って行くことで仮設での経験が少しでも良い思い出として残って欲しいと願いながら考えました。「ポスト」というモノづくりから、「post garden」という住人たちの出会いの場、そして集いの場となっていく仮設団地の「ことづくり」を提案します。

藁草の行燈照明



▲ 点灯した様子



▲ イメージ写真



八代の藁草で製作した建築的造形を持つ照明。藁草自体が調湿・浄化の効果を持っているため、部屋を明るくしながら室内の空気を清潔にします。

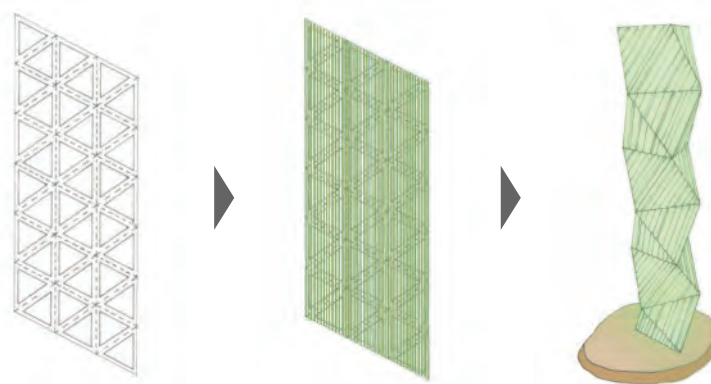
畳表の素材である藁草は多くの方々に親しまれており、その日本での生産量は熊本八代平野が大半を占めています。しかし、近年では中国から藁草の輸入品が大量に流れ込んでおり、本来質が良い八代の藁草が、安価な中国産の藁草の陰に隠れています。

現在の国産藁草産業は衰退傾向にあり、今年7月の豪雨の被災地でもある八代市の藁草農家も厳しい状況にあります。

今回の KASEI 活動を通して、八代の藁草を使用し、改めて国産藁草の良さを伝えるとともに、藁草産業の方々の力になれることを望んでいます。

寸法

- ・ 高さ: 40cm
- ・ 直径: 10cm
- ・ 台座の直径: 20cm



▲ 製作手順

参加学生

ぱったり床几	第一工業大学 副田研究室	湯田勇貴 山原みなみ 谷川蓮 末吉翼
Hourglass chair	熊本県立大学 佐藤研究室	大塚幸洋 奥村友菜 鬼海周平 澤田春奈 宮田真琳
「名前」のない椅子	長崎大学 安武研究室	天野洸 井上聖隆 秋永雄一朗 藤崎大河 川村拓也 桐明要太郎
展開式ついたて	鹿児島大学 鷹野研究室	徳田優志 岡留虎太郎 杉岡和 永田雄大 中村恭子 松崎太一 山本望愛
ippo ippo	熊本県立大学 佐藤研究室	竹内新乃 野崎由佳 手打真帆 高沢香苗 大家君香
ステップ アシスト	九州大学 末廣研究室	王芸燃 荒木俊輔 西田仁誠 角屋良亮 川野まど香
広がる居場所 ー仮設住宅から住宅街へー	九州産業大学 矢作研究室	関太一 福田龍治 荒川みなみ 井上小奈美 小林由佳
宅配ボックス	崇城大学 内田研究室	東大貴 山田峻平 古瀬翼 清水康平
Wood cube	熊本県立大学 佐藤研究室	河崎百花 北岡祐貴 首藤有絵 直江優都 山内杏友 和田明希歩
ハコ × □ =	福岡大学 四ヶ所研究室	大歳駆 玉川智衣 日高拓哉 福永脩生
半透明屏風	第一工業大学 副田研究室	坪水優馬 有馬裕二 石原楓汰 斉藤瑞樹
領域を縫う	九州大学 田上研究室	福田健 鹿島悠平 福山拓也 玉那覇寛明 明石卓也
post garden	熊本大学 田中研究室	福島早瑛 上村理奈 森下彩 舩友飛斗 ツォグドサイハン・テンギスボルド 譚蕾
蘭草の行燈照明	崇城大学 内田研究室	武田さゆり 鈴木寛弥 今村一路 前田将樹

